

令和6年度 授業づくりシート

教科名 自立活動		3 学年
単元名	「自分で選んで遊ぼう」	
単元の目標	・日常生活の行動に関わる言葉かけを聞き、その行動をすることができる。 ・型はめ課題の達成後に玩具の選択ができる経験を繰り返し、二つの活動の結び付きに気付 き、課題へ前向きに取り組む姿勢をもつことができる。 ・マットや消灯、決まった BGM などの環境を把握し、楽な姿勢を見つけて心身の緊張をほ ぐすことができる。	
児童の実態	A 児	個人情報のため省略
児童の 個別目標	A 児	・場面の変化に気付き、適切な行動を取ろうとすることができる。（環境の把握、 身身体の動き） ・手元を見て、型をはめることができる。（人間関係の形成、環境の把握） ・手元を見て、玩具を手にとることができる。（人間関係の形成、環境の把握）

○活動内容と具身体的な手立て

活動内容	児童の予想される言動	具身体的な手立て
・ 始めの挨拶	・ 全身体への言葉かけだけでは 着席が難しく、立ち歩いてい る。	・ 椅子を指さし、片手を引いて立ち上がる支援をし、 着席できたタイミングで大いに称賛する。
・ 上履きと上 履き下を脱 ぐ	・ 教師からの促しを受けて、上履 きと上履き下を脱ぐことがで きる。 ・ 脱いだ上履き下を床に置く。	・ 「上履き（上履き下）を脱ぐ」という言葉をかけなが ら上履きに触れて促し、言葉と行動を結びつける。 ・ 上履き下を入れる意識をもてるように、上履き下を 脱ぐ前に上履きを提示する。
・ 丸の型をは める	・ 丸のピースを片手で持つ。 ・ 型はめのボードに目を向ける ことが難しい。	・ 両手で持ちやすい大きなピースで行い、両手で持っ てから席を立つようにする。 ・ ホワイトボードに型はめのみを掲示し、注視しやす くする。
・ 気にいった 玩具を選ぶ	・ かごの中に手を入れ、1 番近く にあったものを手に取る。	・ 玩具に目を向けて手に取れるように、お気に入りの ものとそうではないものの 2 択を提示する。
・ 身体を休め る	・ マットに寝転んだり、教師の近 くに来たりして休むことがで きる。 ・ 好きな活動のため、自分から終 わりにすることが難しい。	・ 活動中は同じ音楽を流し、音楽が止まったら終わり と意識付ける。 ・ 身体を休める間は電気を消し、点灯で起き上がるよ う促す。
・ 上履きと上 履き下を履 く	・ 言葉かけを聞いて自分から上 履き（上履き下）を手にとるこ とが難しい。	・ 「上履き（上履き下）を履く」という言葉をかけなが ら上履き下を渡し、言葉と行動を結びつける。

・ 終わりの挨拶	・ 椅子に座っていることができ る。	・ 座っている姿を称賛し、望ましい行動に気付けるよ うにする。	
○展開			
時配	活動内容と教師の支援	該当児童	
2 分	○始めの挨拶 ・ 集中できるように、壁際に椅子を並べる。	A 児	
3 分	○上履きと上履き下を脱ぐ ・ 「上履き（上履き下）を脱ぐ」という言葉と動きがつながるように、言葉をかけながら上履き に触れて促す。 ・ 上履き下を上履きに入れる意識をもてるように、上履き下を脱ぐ前に上履きを提示する。		
5 分	・ 達成感を味わえるように、大いに称賛する。 ○型はめ ・ 児童の実態に合わせてピースの形や提示する数を変える。 ・ 両手で持てるように、大きいピースを用意する。 ・ 両手で持って形を意識ができるように、席に座った状態でピースを渡して両手に持ってから 席を立つように促す。A 児		
5 分	・ 型はめが目立つように、ホワイトボードに一つの型はめを貼る。A 児 ○好きな玩具を選ぶ ・ 好きな玩具を見つけられるように、様々な種類、素材の物を用意する。 ・ 玩具に目を向けて手に取れるように、お気に入りのものとそうではないものの 2 択を提示す る。A 児		
5 分	○身体を休める ・ それぞれの身体の休め方を見つけられるように、教師が側に行ったり、毛布を用意したりす る。また、気に入った玩具を持ったまま休んでも良いことにする。 ・ 毎回同じ音楽を流して、音楽の終わりが活動の終わりとわかるようにする。		
3 分	・ 気持ちを切り替えやすいように、身体を休める間は電気を消す。 ○上履きと上履き下を履く ・ 「上履き（上履き下）を履く」という言葉と動きがつながるように、言葉をかけながら上履き 下を渡す。		
2 分	・ 達成感を味わえるように、大いに称賛する。 ○終わりの挨拶をする ・ 座っている姿を称賛し、望ましい行動に気付けるようにする。		
○児童の授業に取り組む様子			
A 児	・ 型はめでは、繰り返す中で“はめる”ということを理解し、はめられるようになった。見続 けることは難しいが、枠を壁のどの位置に貼っても見つけられるようになった。 ・ 好きな玩具を見つけることが難しかったことから、いろいろな感触を足の裏で感じるに変 更した。自然と足元を見て自分の苦手な感触のマットを踏まずに進む姿が見られた。		
グループ全体の反省・課題 等			
・ 意思表示が難しい児童の快・不快を見つけるために、足の裏でマットを踏む活動は新たな発見がで きた。そのことから児童が目や口を開いたり、踏まずに避けたりするなど自然と感情を表出できる場面 を増やしたい。			